

石川県PTA連合会・石川県小中学校校長会 教育懇話会

日時 平成29年9月22日(金)16:00-17:30
会場 金沢東急ホテル
進行 県小中学校校長会理事長 吉川 滋

◎次 第

- 1 開会挨拶 県PTA連合会会長 北川 和也
県小中学校校長会会長 福永 善則
- 2 自己紹介
- 3 協 議
＜協議題＞ 「ネットトラブル及びその対応についての現状と課題」
(1) 基調報告 県小中学校学生会指導部副部長 間庭 喜久夫
(2) 意見交換
- 4 閉会の挨拶 県小中学校校長会副会長 平澤 晃一

◎教育懇話会報告

1 基調報告

県小中学校学生会指導部副部長の間庭喜久夫校長より以下の資料を基に基調報告がありました。

『ネットトラブルおよびその対応についての現状と課題』

1. ネットトラブル事例集より（総務省 H28年10月）

- ・ゲームに夢中になっている最中に生じた高額課金
- ・無料通信アプリなどでの悪口や仲間はずれ
- ・SNSやネットで知り合った人による性犯罪被害
- ・なりすまし投稿による誹謗中傷
- ・不正アプリやウイルスやSNSなどへの投稿による個人情報漏えい
- ・自らIDとパスワードを教えたことによる被害
- ・オンラインショッピングやフリマアプリでのトラブルやワンクリック詐欺などによる不当請求
- ・動画の違法なアップロードとダウンロード など

さまざまなトラブルの中で、学校現場で危惧されているのが・・・

スマホ依存による日常生活への悪影響とネットいじめ、そして、そのことを原因とする不登校です

2. 石川県小中学校校長会アンケートより

(1) ネットトラブルについて

- ・件数は、小中学校とも微増です。小学校高学年から中学校にかけて増加する傾向にあります。
- ・中学校では、特に「ネット依存」の数が多いです。たとえスマホを持ってなくても、端末機器は、リサイクルショップなどで簡単に購入することができます。
- ・小学校では、「ネットいじめ」の数が高学年で昨年度以上に増加しています。
- ・ネットトラブルの内容としては、「LINEグループの強制退会」や「ガールズチャンネルに動

画と音声をアップ」,「SNSに写真のアップ,・ユーチューブにアップ」などがあります。

・また、「保護者同士のLINEトラブル」というものもあります。

(2) ネットトラブルの対策

各学校では、対策として

- ・参観日や親子行事などでの講話、研修
- ・PTAの取組（家庭内ルール、年間テーマ）
- ・家庭でのアウトメディアの取組
- ・学校保健委員会でのテーマ実践（使用・睡眠・事例）
- ・情報モラル授業、出前授業
- ・長期休暇前にネット利用の約束 などをとっています。

これは！というような解決策があるわけではありません。

スマホ等を持たせないという策がないわけではありませんが、実際には難しいものがあります。

また、一方で、※プログラミング教育も学校に入ってきます。

ネット社会との共存を図りつつ、子どもの健全な育成を図るためには・・・

※コンピューターに動きを指示するために使われるプログラムを学ぶ教育。技術を学ぶだけでなく、自分が求めることを実現するために必要な動作や記号を考え、組み合わせながら改善していく、論理的な「プログラミング的思考」を育むのが狙いとされている。新しい学習指導要領に盛り込まれ、小学校でも2020年度から必修化される。

2 意見交換

取り組みの現状

T:学校では、スマホを持っていることを前提に指導していると思うが、実態はどうでしょうか。

P:我が子について、姉が中学校に入学するのを機に購入。小学生の妹は、iPod touchでLINEをしている。町の調査では、メディアに触れている時間が県内でも長いという結果が出ている。ノーメディアデーを小中学校連携で行っている。

T:スノーというアプリがある。データが時間と共に消えていく。小学校の高学年で使っている実態がある。中学生の中には、SNSはダメだがLINEはいいと思いを違えている子がいる。(変な話だが)

P:私の市で、ノーメディアデーを全ての小中学校で行った。取り組みの後、どう思ったかをアンケートした。多くの意見として、「メディアを遮断する事で親子の会話の良さを知った」ということであった。一方少数意見だったが、「この時代にノーメディアデーは、合わないだろう。どう向き合うかを考えるべき」という回答があった。大人がLINEをしているのに、子どもはなぜダメ?大人が使っている環境がある。そうになっている。

T:私の市では、持たせないを、早くから取り組んでいる。LINEなどは、閉鎖空間でネットパトロールでは、つかみきれない現状だ。市役所でフィルタリングをかけるサービスを行っている。事例として、保護者の中には小学生にスマホを学校に持たせて、どうしていけないのかという意見もある。

T:本市でも、市、学校、PTAの連携で持たせない取り組みを行っている。21時ルールなどを取り組み、生活アンケートも行い指導もしている。

P:県Pの課題別研究を活用して、中学校とその校区の小学校も取り込んで、共通のルールを有利に取り組んだ。姉が中学生、弟が小学生の場合など共通のルールだと取り組み易い利点があった。夏休み中の1ヶ月間行い、実施アンケートも取った。その中に、保護者からLINEについての講演会(研修会)をとの要望があり、学校や市Pで講演会を開催した。

我が子のことだが、スマホを持っている。ちょっとしたふざけで大きなトラブルになった経験がある。・・・

時代にあった対応

P：中2の息子が、自分で中古のものを買ってきた。今は、ネットと向き合う時代。家庭内でルールを作って使わせているのが現状。下の子の小学校でLINEのインストラクターを呼んで研修会を行ったが、その講師さんも子どもたちへの対応に答えがないようだった。私は、最後は考えることで対応するしかないと思っている。ケース、ケースを地道に対応していくしかないのでは。

P：日Pの全国大会で、高校生の話だが、(発言者の住んでいるところの)高校生は、進学する大学は、地元にはないのは分かっているの、自分で使えるようにさせている。親自身もLINEを体験して、対応したという話があった。親が知ることも必要でないか。

P：小学生のゲームの話なるが、21時ルールの他に週7時間ルールというのを作って取り組んでいる。ただ、子どもたちは時間を貯めておいて、土曜日に一気に使う。結局、長時間使用になってしまう。ルールを工夫しなければと思っている。

小6の子が使うので、下の小1の子は、上手に使えるようになっている。使い方を子どもは直ぐに覚える。21時ルールも行っている。大人も21時以降は使うことに気をつけるようにしている。

P：ゲームとかネット依存が気になっている。私の市でもネットの取り組みを行っているが、各家庭での取り組みは、なかなか難しいようだ。ネットいじめでは、悪口を書き込むものやLINEを既読としないなど無視するといったものがあるようだ。やはり使い方指導を徹底していくことが大切と思う。

スマホ、iPodは使えるがパソコンができない子が増えていると聞くが、2020年から学習指導要領の本格的な対応が始まる様だが現状はどうか。

T：パソコンを使えなくなってきたのではということですが、技術の時間に時数が少ない中ですが、社会科の資料をまとめて発表するためにパソコンを使うということを行っている。少しでも身に付けばと考えている。ネットの状況を知ることについては、何かの切っ掛けがないと分からない。家庭での気づきを学校へ連絡して欲しい。

T：ICT支援員が学校に配置されていると情報モラルや機器の使い方について指導ができ解決の方向に向かうのではないか。県P連として配置要望して欲しい。

T：子どもをネットトラブルから守るためには、PTAと連携が大切と考えている。講演会の人々の集まりは今一つ。大人への働きかけがいる。スマホの機能制限など大人の責任を明確にする必要がある。

子ども自身に判断力を

T：単Pの講演会では、来て欲しい人が来ない現状がある。私の市では、中学生を集めて中学生サミットを行っている。ここで、啓発資料を作成し、自分の学校で活用する。子どもの側から家庭教育を、子から親という流れを工夫している。

T：ネットについて「知る」ことを教育として繰り返しやっていく。子どもの判断能力をつくることが大事だ。

T：生徒会の取り組みを前面に出し子どもらが考える場面をつくっている。

P：私の市では、中1担任と級外がLINEの使い方やマイナス面を研修した。高校では、予定変更がLINEでは行ってくる時代。しっかりした使い方(使いこなす)を教えていく必要がある。

まとめとして

T(福永会長)

- ・全国学力状況調査の質問紙調査で、小6のネットの使用時間は、石川県は全国より少ない結果だった。ただ何れは、増えていくことだろう。
- ・ネットトラブルに関する教育は必要。今、小5で非行被害防止講座を行っている。警察で対応した実際の事案をもとに話をしてもらっている。結構生々しい話。親子で同じ話を聞くことで共通の話ができる。
- ・現状に対応していくためには、こうした講座を小4、小6と学年を増やす。さらに学びの回数を増やすことが必要と考えている。
- ・ITCによる月2回の指導では、ネットモラルのことも入っているが、より計画的に行っていくことが必要と考えている。
- ・スマホ等を持たせる持たせには、家庭に任せてよいと思うが、家庭でのルールは必要だと思う。ただ、そのルールは各家庭のルールなので市町での統一したルールがあった方が強いと思う。
- ・学校がすること、できることは、実態把握し早期発見・早期対応だと思う。毎月行っているいじめや生活についてのアンケートの項目にネットに関するものを入れるとよい。
- ・ネットに関する取り組みは、大人からの押しつけではなく子ども自らがなぜ、どうしてだめなのかを考えることが大切と思う。学級での話し合いも有意義ではないか。子どもが判断していく、判断できることが大切だと感じる。

P(北川会長)

- ・「いしかわこども条例」が制定されたころは、スマホがなかった。持たせないは第一だが、時代に即したことをやる必要がある。
- ・日Pの仕事で千葉県に行ったが、持つ、持たせいの議論はない。持っているのが当たり前。福島県は震災を体験して、必ず持つのが当たり前。チラシの宣言文、県P連として見直しを考えている。
- ・民間会社は、よい研修を提供している。良い話だけでなく悪い話もする。先生方も声をかけ呼んでみるとよい。PTAでは結構活用している。
- ・学校評議員会や学校運営委員会など学校経営に関する話をする機会にネットトラブルの話を入れてもらうのがよいのではないか。学校とPTAの連携を密にすれば、より良い方向に向かうのではないか。
- ・教員定数のことは、日P（全国64協議会がまとまって）で文科省に要望書を出して一定の結果を出している。